



【アーティストサポート】へ、多くの皆様からお気持ちをお寄せいただきましたことに、心より感謝申し上げます。
寄せられたご支援は、アーティストの様々な活動に幅広く使っていただいております。

「人のいるところには夢がある」創業48年来のジャパン・アーツの理念です。
どんな時代においても、音楽・芸術から生まれる感動は、
人々に夢・希望・生きる力を与えてくれます。

これまでの活動レポートは、ジャパン・アーツのホーム・ページに
掲載しておりますので、どうぞご覧ください。
今年度も変わらぬご支援をどうぞよろしくお願い致します。



アーティストサポートの詳細は
こちらをご覧ください。

2024年度ご支援いただいた皆様

<2024年度 年間サポート>

K.O 片山由美子 H.K 栗田美知子 新貝康司 M.S M.T A.D
トゥルーラブ真知子 トゥルーラブ真凜 S.N 平山美由紀
藤野盾臣 松尾芳樹 真野美千代 J.M
(匿名希望 6名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 オフタイム・サポート>

真野美千代
(匿名希望 4名)

<2024年 ウィーン少年合唱団 ツアー・サポート>

平山美由紀 真野美千代 村瀬治男
(匿名希望 3名)

2024年5月1日現在 敬称略



ご支援についての詳しい内容は、どうぞ下記へお問い合わせください。

株式会社ジャパン・アーツ アーティストサポート係 Tel.03-3499-7720 (平日11:00~17:00 年末年始を除く)



ヒラリー・ハーン & アンドレアス・ヘフリガー

デュオ・リサイタル2024

Hilary Hahn & Andreas Haefliger Duo Recital 2024

© Dana van Leeuwen Decca © Gianmaria Gava

2024年5月16日(木) 19時開演

東京オペラシティ コンサートホール

7:00 p.m. Thursday, May 16, 2024 at Tokyo Opera City Concert Hall

主催: ジャパン・アーツ
共催: 公益財団法人東京オペラシティ文化財団
協力: ユニバーサル ミュージック

ブラームス:

J. Brahms:

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 Op.78「雨の歌」

Violin Sonata No.1 in G major, Op.78

第1楽章：ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロッポ

1st Mov.: Vivace ma non troppo

第2楽章：アダージョ

2nd Mov.: Adagio

第3楽章：アレグロ・モルト・モデラート

3rd Mov.: Allegro molto moderato

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 Op.100

Violin Sonata No.2 in A major, Op.100

第1楽章：アレグロ・アマビレ

1st Mov.: Allegro amabile

第2楽章：アンダンテ・トランキロー ヴィヴァーチェ

2nd Mov.: Andante tranquillo - Vivace

第3楽章：アレグレット・グラツィオーソ・クワジ・アンダンテ

3rd Mov.: Allegretto grazioso quasi Andante

* * *

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 Op.108

Violin Sonata No.3 in D minor, Op.108

第1楽章：アレグロ

1st Mov.: Allegro

第2楽章：アダージョ

2nd Mov.: Adagio

第3楽章：ウン・ポコ・プレスト・エ・コン・センチメント

3rd Mov.: Un poco Presto e con sentimento

第4楽章：プレスト・アジタート

4th Mov.: Presto agitato

ヒラリー・ハーン&アンドレアス・ヘフリガー 2024年日本公演スケジュール

5月14日(火) [浜松] アクトシティ浜松中ホール	主催：(公財)浜松市文化振興財団
5月15日(水) [所沢] 所沢市民文化センター ミューズ	主催：(公財)所沢市文化振興事業団
5月16日(木) [東京] 東京オペラシティ コンサートホール	主催：ジャパン・アーツ 共催：(公財)東京オペラシティ文化財団
5月17日(金) [川崎] ミューザ川崎シンフォニーホール	主催：神奈川芸術協会

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

Hilary Hahn, Violin



© Dana van Leeuwen Decca

グラミー賞3度獲得のヴァイオリニスト ヒラリー・ハーンは、表現力のある音楽性と技術的な専門知識を、多様なレパートリーと融合させている。彼女のクラシック音楽に対する姿勢と、自身の経験を世界中の人々と分かち合おうとする覚悟が、ファンの心を掴んでいる。

2017年に立ち上げたインスタグラム・プロジェクト「100日間の練習(100 Days of Practice)」では、自身が練習している様子を撮影した動画を投稿した。このように舞台裏での練習をファンに公開することは、これまで彼女とファンとの間にあった、音楽の創作過程における垣根を取り払うことを目的としている。2017年の開始以来、演奏者仲間や学生達はこのハッシュタグのもとに100万近くの投稿を寄せた。また「プリング・ユア・オウン・ベイビー」コンサートでは、幼児を持つ親が、居心地の良い環境のなかで、生のクラシック音楽の楽しさを子供たちと共有する機会を生み出している。

これまで多数レコーディングを行っており、様々な新聞雑誌の批評家賞を受賞している。2003年のブラームスとストラヴィンスキーの協奏曲、2008年のシェーンベルクとシベリウスの協奏曲、2013年の「27の小品 ヒラリー・ハーン・アンコール」の3作がグラミー賞を受賞、「エイブルズ：アイソレーション・ヴァリエーション」は、2022年第65回グラミー賞の最優秀クラシック器楽独奏部門にノミネートされた。2023年には「イザイ：6つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ」をリリース。

2023/24シーズンは、ドイツ・カンマーフィル、コロンビア・ユース・オーケストラ、イスラエル・フィル、ロサンゼルス・フィル、ニューヨーク・フィル、シカゴ響、ワシントン・ナショナル響、ピッツバーグ響、セントルイス響、スウェーデン放響と共演。存命の作曲家への作品委嘱および演奏を頻繁に行っており、今シーズンのレパートリーには、バーバラ・アシギナーク、スティーブン・バンクスをはじめとする新作および近年の作品が多数含まれている。

第11回グラスヒュッテ・オリジナル音楽祭賞、2021年ヘルベルト・フォン・カラヤン賞、2023年ミュージカル・アメリカ誌の「アーティスト・オブ・ザ・イヤー」を受賞。現在、シカゴ交響楽団初となるアーティスト・イン・レジデンスとして3シーズン目を迎え、ニューヨーク・フィルハーモニックのアーティスト・イン・レジデンス、ドルトムント・フェスティヴァルのキュレーティング・アーティストを務めている。



Hilary Hahn, Violin

アンドレアス・ヘフリガー (ピアノ)

Andreas Haefliger, Piano



© Gianmaria Gava

アンドレアス・ヘフリガーは、スイスの名テノール歌手 エルンスト・ヘフリガーを父にもちドイツで育った。15歳でニューヨークのジュリアード音楽院へ入学、瞬く間に一流のピアニストとして認められ、ニューヨーク・フィル、クリーヴランド管、ロサンゼルス・フィル、ボストン響、ピッツバーグ響、シカゴ響、サンフランシスコ響などアメリカの主要オーケストラと次々に共演。ヨーロッパでもロイヤル・コンセルトヘボウ管、ロッテルダム・フィル、ミュンヘン・フィル、ブダペスト祝祭管、ベルリン・ドイツ響、パリ管、ロンドン響、ウィーン響といった名だたるオーケストラと共演を重ねている。またルツェルン、エディンバラ、アスペンなどの音楽祭には常連アーティストとして

招待され、ウィーン・コンツェルトハウス、ロンドンのヴィグモアホールにも定期的に出演。1988年にニューヨーク・デビューを果たし、今日優れたリサイタル・アーティストの一人として知られ、欧米、アジアなどで高い評価を得ている。

2019年のBBCプロムスで、彼と同じスイス人作曲家ディーター・アマンに特別に委嘱したピアノ協奏曲「グラン・トッカータ」を、サカリ・オラモ指揮BBC響との共演で世界初演。同曲はスザンナ・マルッキ指揮ボストン響と北米でも初演され、ウィーン響、ミュンヘン・フィル、台北市立響との共演のほか、ルツェルン音楽祭ではヘルシンキ・フィルと共演した。

2020年3月、コロナウイルスが発生したとき、ヘフリガーはスイス・アルプスの山小屋にいた。多くの演奏会の中止を余儀なくされたが、この期間を利用してベートーヴェンの記念碑的なピアノ・ソナタ第29番《ハンマークラヴィーア》に取り組み、その演奏とアルプスの環境を撮影したアートムービーを完成させた。この映画は映画館やテレビ局で取り上げられており、2020年のアスペン音楽祭では、予定されていたライブ・リサイタルの代わりにストリーミングで世界初公開された。

ソニークラシカルよりモーツァルト、シューマンといったソロCDの他、デッカよりタカチ弦楽四重奏団、バリトンのマティアス・ゲルネとのCDをリリース。ゲルネとのシューベルトの録音はドイツ・レコード批評家賞を受賞した。

2018年春、BISレコードより「パースペクティヴ」シリーズの最新盤をリリース。また2020年春には初のコンチェルトアルバム「アマン／ラヴェル／バルトーク：ピアノ協奏曲（スザンナ・マルッキ指揮ヘルシンキ・フィル）」をリリースした。この時、ディーター・アマンのピアノ協奏曲「グラン・トッカータ」が世界初録音された。また、2022年秋には「ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ作品31」をリリースし、高い評価を得た。



Andreas Haefliger, Piano

平野 昭 (音楽評論) Akira Hirano

ブラームス Johannes Brahms (1833-97)

ブラームス(1833～97)のヴァイオリン・ソナタと言えは3曲ということだが、20歳の1853年には、後に世界一周演奏旅行(神戸、横浜、東京の宮中や鹿鳴館でも)をする名ヴァイオリニストのエドゥアルト・レマーニ(1828～98)と何度も演奏旅行を重ねているし、その後はレマーニの紹介で知り合った名手ヨーゼフ・ヨアヒム(1831～1907)との演奏旅行、また、ウィーン音楽院院長でヴァイオリニストのヨーゼフ・ヘルメスベルガー(1828～93)との共演など多くのヴァイオリニストと親交を深めていたことを思えば、3曲というのはいかに少ない。彼らが演奏するモーツァルトやベートーヴェンをはじめとする多くのヴァイオリン・ソナタに精通していたはずなのに、である。しかも、第1番Op.78の作曲が46歳というのも遅すぎるように思える。しかし、事実とはそうではなく、第1番はおそらく4作目のヴァイオリン・ソナタと考えられている。すでに作られた3作のうち2作はブラームス自身により破棄されたが、もう1曲は1853年にハンブルクで作曲されレマーニとの演奏旅行で数回演奏された記録が残されている「イ短調」ヴァイオリン・ソナタで、当時はリストやシューマンから出版を勧められていたのだが、未出版のまま紛失してしまった(やはり、ブラームス自身による自己批判によって若書きの作品として破棄された可能性もある)。

つまり、現存する3曲、46歳の第1番と53歳のときに相次いで書き上げた第2番と第3番はブラームス自身満足できる傑作に仕上がっているということだ。

ヴァイオリン・ソナタ 第1番 ト長調 Op.78「雨の歌」

1878年4月の初めてのイタリア旅行の帰途、5月からは前年夏に交響曲第2番を短期間で作曲したオーストリアの風光明媚なヴェルター湖畔の町ペルチャハにおよそ半年間滞在して唯一のヴァイオリン協奏曲Op.77を書き上げている。秋には協奏曲を書き上げた勢いのままト長調のヴァイオリン・ソナタの作曲に着手し、翌1879年の夏、3年続けて訪れた気に入りのペルチャハでこれを完成させている。親しい友人クララ・シューマンやヘルツォーゲンベルク夫妻を招いてヨアヒムのヴァイオリンとブラームス自身のピアノで私的な初演をしてから出版社に送っている。同年11月にベルリンのジムロック社からOp.78として出版されるのに時期を合わせたかのように11月8日にボンのゴルデネン・シュテルン・ザール(金色星型ホール)で行われたマリー・ヘックマン＝ヘルティッヒ(vn)とロベルト・ヘックマン(pf)主宰の室内楽シリーズ第1回で公開初演された。この12日後の11月20日にはウィーンでブラームスとヘルメスベルガーによって再演されている。愛称の《雨の歌》は第3楽章の開始主題が1873年に作曲した《8つのリートとゲザング》Op.59の第3曲、友人である詩人クラウス・グロート(1819～99)の詩による《雨の歌 Regenlied》の冒頭4小節を使っていることに由来する。これは単に愛称に留まらず、終楽章の《雨の歌》主題の部分動機に由来すると思われる音形が第1楽章(開始の同音連打リズム)と第2楽章(旋律音程)に認められ、ブラームスは終楽章の主題在りきで第1、第2楽章を書き進めたと思われる。

第1楽章：ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロポ ト長調 4分の6拍子。

第2楽章：アダージョ 変ホ長調 4分の2拍子。

第3楽章：アレグロ・モルト・モデラート 短調〜ト長調 4分の4拍子。

ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ長調 Op.100

1885年の夏に最後の交響曲第4番を完成させ、マイニンゲンでの初演を皮切りに各地で自ら指揮して成功を収めていた。1886年以降のブラームスは創作の中心を室内楽と歌曲や合唱曲にシフトしている。この年の夏をスイス、ベルン近郊のトゥーン湖畔に滞在しながら、チェロ・ソナタ第2番Op.99やピアノ三重奏曲第3番Op.101とともに「イ長調」と「ニ短調」の2曲のヴァイオリン・ソナタを完成させている。さらに5曲セットの歌曲集Op.105,106,107の15曲のリートも作曲している。こうした歌曲創作が器楽作品の性格にも影響を与え、ヴァイオリン・ソナタは極めて優美で至福感あふれる叙情性に富んだ作品となっている。1886年12月2日にウィーン楽友協会小ホールにおけるヘルメスベルガー四重奏団演奏会でブラームスとヨーゼフ・ヘルメスベルガーが手稿譜を使って初演。初版譜は1887年4月にベルリンのジムロック社から出版された。

第1楽章：アレグロ・アマービレ イ長調 4分の3拍子。

第2楽章：アンダンテ・トランキロ ヘ長調 4分の2拍子〜ヴィヴァーチェ ニ短調 4分の3拍子。AB〜A' B'〜A" B"の構成でA部が穏やかなヘ長調のアンダンテ、B部が情熱的なニ短調のヴィヴァーチェというように交互に緩急の入れ替えて発展する。

第3楽章：アレグレット・グラツィオーソ・クワジ・アンダンテ イ長調 2分の2拍子。

ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 Op.108

このソナタも1886年8月にトゥーン湖畔で作曲されていたのだが、親友の音楽家夫妻ヘルツォーゲンベルクらのアドバイスを受け入れて改訂を重ねて1888年12月に完成させたものである。1888年12月21日にブダペストでブラームスとイエーネ・フーバイ(1858〜1937)が手稿譜によって初演し、初版譜は1889年4月にベルリンのジムロック社から出版され、ブラームス音楽の理解者でピアニスト指揮者として知られるハンス・フォン・ビューロウ(1830〜94)に献呈された。曲は4楽章構成で全体に内省的で諦観にも似た抒情や哀愁が漂う。その一方、表記はないが、意表を突いた嬰ヘ短調で書いた第3楽章はスケルツォ風で、苦悩や苦痛を内に隠して軽快なリズム律動を強調する。終楽章では一切の憂愁を打ち払うかのように情熱が噴出するが、その底流には寂靜が漂っている。

第1楽章：アレグロ ニ短調 2分の2拍子。

第2楽章：アダージョ ニ長調 8分の3拍子。

第3楽章：ウン・ポコ・プレスト・エ・コン・センチメント 嬰ヘ短調 4分の2拍子。

第4楽章：プレスト・アジタート ニ短調 8分の6拍子。